

倉石武四郎海義

本邦に於ける史學の發達

昭和廿一年春

# 目次

## 目次

はじめに

戸川 芳郎

i

倉石武四郎「日本漢文学史の諸問題」

凡例

xxii

xiii

iii

本邦における支那学の発達

倉石武四郎講義

1

一 大陸文化の受容

二 平安期の中国学藝の受容

三 博士家の学問と訓法の発達

四 遣唐使廃止後・鎌倉と日宋交流

五 宋学新注と五山文学、書物の印刷

六 惺庵新注学、羅山点と闇齋点

七 仁斎と徂徠

八 七経孟子攷文・護国学派、唐話学と長崎通事

九 江戸期学藝のひろがり、白話小説・戯曲

十 幕末明治の漢詩文と学藝

十一 漢学・東洋史学

十二 京都支那学

十三 諸帝大の支那学・東洋史学・支那語学

93

85

80

71

59

52

45

38

31

24

16

8

1

補注

解説

大島 晃

149

101